

中守破離



令和6年11月25日（月）第24号

タイの先生方が訪問されました。

～初等中等教職員国際交流事業 タイ教職員招へいプログラム～

文部科学省の委託事業である初等中等教職員国際交流事業によって、タイの教職員の方々が広島県の教育機関を訪問されました。福山市の小学校を2日間視察後、11月8日（金）は仁方中学校に来校されました。



来校された方々は、タイの教育省の職員と初等中等教育の校長・教頭・教諭など12名、通訳2名・ユネスコ職員2名、そして、呉市教育委員会からの3名でした。



最初に図書室において、歓迎の会を行いました。歓迎の言葉の後、記念品の交換を行いました。本校からはPTA執行部役員の皆様が作成した記念品を贈呈し、大変喜んでいただきました。その後、本校が進めている学校教育についての説明を終え、全学級の授業を参観されました。



授業参観後は、図書室に戻り4つのグループで協議しました。



通訳を介したり、翻訳アプリを使用したりしながらの協議でしたが、タイの先生方の教育に対する意識の高さを感じました。また、日本とタイの教育の違いも知ることができ、それぞれの国の文化が違っても子どもたちの教育に力を入れていることは強く伝わってきました。



日本では義務教育を受けさせることは当たり前ですが、タイでは義務教育であっても家庭環境などの理由から義務教育を終了できないこともあることを知り、改めて一人一人を大切にする教育が重要であることを認識しました。

協議後、タイの先生方は各学級に分かれて給食を生徒の皆さんと一緒にいただきました。また、図書部の生徒の皆さんが作成した記念品も生徒の皆さんから贈呈しました。

各学級では様々な方法での「おもてなし」があり、本当に楽しかったそうです。何より、タイの先生方は大変親しみやすく、短い時間でしたが生徒の皆さんと楽しそうに交流されていました。そして、楽しい時間はあっという間に過ぎ、お別れの時間となりました。

中庭を挟んで全校生徒による合唱を披露すると、タイの先生方は大変感動されていました。最後は、タイと日本の国旗を振ってお見送りをしましたが、一部の生徒の皆さんはグラウンドを後にする先生方にも元気に手を振っていました。

約3時間半の訪問でしたが、大変貴重な経験であり、国際交流の楽しさを生徒も教員も実感することができました。

生徒の皆さんには、幅広い視野をもち、グローバルな視点で物事を深く考え、世界に通用する人材になってほしいと感じた1日でした。

